



「ジュビロ磐田開幕戦」でどん汁1000食を自衛官が振る舞う



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、2月25日（日）、小笠山総合運動公園スタジアムエコーパ（袋井市）において、サッカーJリーグ1部に所属するジュビロ磐田の開幕戦イベントに協力した。これは、株式会社ジュビロと袋井市から依頼があったもので、航空自衛隊浜松基地（浜松市）と静岡地本及び陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊が支援を行った。

当日はやや肌寒い冬晴れの中、開幕戦を待ち望んだ3万人を超えるサッカーファンが同スタジアムに集まった。自衛隊は、第1航空団が所有するT-4中等練習機の航過飛行、第34普通科連隊が軽装甲機動車、オートバイ、高機動車、大型トラックの展示を実施するとともに、同スタジアムは大規模災害発生時に防災拠点として活用されることから、災害派遣で活躍する野外炊具1号を使用し自衛官がどん汁1000食の炊き出しを行い、来場者に振る舞い大会を大いに盛り上げた。温かいどん汁を手にした来場者は、迷彩服姿で調理する隊員の姿に、自衛隊の活動力を実感していた。

一方、静岡地本は3月の自衛官候補生採用試験に向け、自衛隊に興味のある若者への募集制度説明に力を入れる傍ら、子供用迷彩服の試着体験及び非常用糧食展示を実施し、親子連れの家族にも楽しんでもらった。

地元高校3年で航空機整備関係の専門学校に進学予定の女子生徒は、「航空自衛隊に航空機の整備をする女性自衛官が多くいると聞いて驚いた。将来の進路の参考にしたい」と話していた。

静岡地本は、今後も部隊や地元と連携し広報活動を積極的に行い、地域住民の自衛隊に対する理解と信頼感の向上に努めるとともに、これからの時代を担う自衛官等の募集に努めていく。

高校生に自衛官の魅力をアピール



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、3月15日（木）、学校法人南陵学園菊川南陵高等学校（菊川市）で行われた「高校内ガイダンス」に参加した。

これは、同校が2年生の進路意識の向上を目的に実施するもので、生徒が進学や就職など19分野の中から希望の分野を一つ選択して説明を受ける形式で行われ、静岡地本は公務員分野として自衛官の魅力を伝えるべく、袋井地域事務所の河野和明2等空曹が参加した。

自衛隊のほか、大学等の講師や自動車整備など幅広い職業・職種が集まり、各教室において約50分間説明を行った。河野2曹は、公務員に興味がある生徒5人に対し、自衛隊の編成や任務、陸・海・空の職種などについて説明するとともに、東日本大震災における自衛隊の災害派遣活動を紹介するビデオを上映し、自身の災害派遣の経験も踏まえ自衛官としての魅力ややりがいを生徒に熱心に伝えた。

説明を受けた生徒からは「自衛隊は陸・海・空の中にも、更にさまざまな職種があると知り、仕事に対する理解や関心が深まった」などの感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も各学校と積極的に交流し、自衛隊のやりがいや魅力を伝えていくとともに、若者が描く未来の夢の可能性の拡大・結実をサポートしていく。